

部活動などの活躍

《1・2年生バレーボール部》

荒川区新人シード権大会
第2位



バレー部の皆さん

3年生
(1組)

令和二年度第1回漢字コンテスト満点賞

(2組)
(3組)

笑顔がもたらす効果～松田校長先生～

その2. ポジティブな気持ちになる

アメリカの心理学者トムキンス氏が発表した「顔面フィードバック仮説」によると、笑顔になることで顔の表情筋が刺激を受け、それが脳にフィードバックされ、ポジティブな感情が生まれるそうです。顔の筋肉は、感情を司る脳のA10神経群が密接に関係していることから、脳科学の視点からも、笑顔を浮かべていると脳が楽しいと勘違いしてポジティブな思考になりやすくなるそうです。反対に、しかめっ面をしているとポジティブな気持ちにはなりにくい、ともいえるのだそうです。

南千住マイスターのコーナー

「解体新書」は世に出ると大きな反響を呼び、玄白は時の人となり、將軍の拜謁を許されるまでになりました。開業医として経済的にも豊かな後半生をおくりました。一方良沢は書齋にこもり、さまざまな蘭学書の翻訳をしますが、刊行すらしませんでした。玄白が「蘭学事始」で良沢を紹介してはじめて世はそのことを知ります。しかしそれは良沢が80年の生涯をとじた後のことでした。

南千住と歴史上の人物 その3

『解体新書(2) 前野良沢』

前回このコーナーでは回向院で行われた贈分けに関連した解体新書の「杉田玄白」を紹介しました。この解体新書発行のもう一人の功労者は「前野良沢」です。今回はこの前野良沢を紹介いたします。解体新書といえは、まず杉田玄白ですが、なぜ前野良沢はその次なのでしょう。

前野良沢は豊前国中津藩(現・大分県中津市)の藩医で蘭学者です。享保8(1723)年、筑前藩士の子として生まれますが、幼時に父母と別れ、医官の叔父に引き取られ育てられました。40歳を過ぎた頃、蘭学を志し、明和7(1770)年藩主の参勤交代について中津に下向した際、長崎へと留学しました。留学中に入手したのが西洋の解剖書「ターヘル・アナトミア」でした。蘭学書の正確さに驚いたのは玄白と同じでした。玄白と知り合った良沢は、一緒に翻訳に乗り出します。その作業は困難を極めました。玄白は、他の仲間とともに何とか完成にこぎ着けます。玄白はこの翻訳をすくなくとも世に発表しようと思いましたが、良沢は、翻訳に不十分などがあるかと発行を先に延ばすことを主張します。しかし玄白は医学の発展のためにも発行を決めます。根からの学者肌だった良沢は、翻訳者として名を連ねることを辞退したのです。オランダ語の力は玄白よりもはるかに優れ、翻訳作業の立役者は、実は名前がのっていない良沢だったのです。

「解体新書」は世に出ると大きな反響を呼び、玄白は時の人となり、將軍の拜謁を許されるまでになりました。開業医として経済的にも豊かな後半生をおくりました。一方良沢は書齋にこもり、さまざまな蘭学書の翻訳をしますが、刊行すらしませんでした。玄白が「蘭学事始」で良沢を紹介してはじめて世はそのことを知ります。しかしそれは良沢が80年の生涯をとじた後のことでした。

小塚原回向院
観蔵記念碑



学校だより
令和二年9月
第108月号
荒川区立南千住第二中学校



ナンちゃん・ニーくん

自分の集団(学校)は最高!

校長 松田 公好

新型コロナウイルスの感染拡大が続く8/24(月)、熱中症予防と密を避けるため、2学期の始業式は空調設備のある体育館で学年別に行いました。

どの学年も元気な姿を見せてくれ、順調な2学期のスタートを切ることができました。

この始業式では校長としてこんな話をしました。

※3つの学年に多少異なる内容の話をしたため、学年によっては話されていない内容もあります。

人は誰もが様々な集団の中で生活しています。最も身近な集団は家族、そして南千住第二中学校、第〇学年、〇年〇組…南千住という地域も一つの集団と考えることができます。私たちは自分が所属している集団をどう感じるかによって、そこでの生活の質が大きく変わります。南二中では地域学習に力を入れています。その目的は何でしょう？

それは、自分が住んでいる(所属している)この地域(集団)についてしっかり学ぶことにより、地域の良さを理解し地域が好きになり、地域を大切にしようとする気持ちを育てることです。そして地域を愛する気持ちが逆に地域に愛される学校につながります。地域学習はこの効果を期待したもののなのです。自分が所属する集団を好きになることはそこでの生活を豊かなものにしてくれます。だからみなさんにはまず、南二中をもっともっと好きになってほしいと思います。南二中を好きになるには南二中の良さをたくさん見つけて共有することが大切です。

今後、私自身はみなさんに南二中の素敵な面をできるだけたくさん紹介していきます。

今日はその第1弾として1つ簡単なエピソードを紹介します。

昨年度、南二中は30周年の記念行事を行いました。そのときのご来賓のあいさつの中でこんな言葉が聞かれました。「南二中の生徒はとても爽やかに感じる」と…私はこの言葉を聞いてとてもうれしく感じました。これは多くの先輩たちが築き上げた南二中の印象だからです。みなさんはこれに恥じない行動を心掛け、さらに積極的に自分が所属している集団(学校、学年、学級)の良い点を見つけてみてください。そしてその集団の中で楽しく充実した生活を送ってください。

私はかつての南二中も今の南二中も大好きです。

特に進路選択を控えた3年生にとってこの「自分の学校を好きになること」はとても大切だと思います。ぜひ心にとめておいてください。



始業式・学年朝礼

2学期の始業式が8月24日(月)にアリーナで行われました。密を避けるため学年別に3部に分かれ開かれ、校長先生の講話や学年の先生方から2学期の予定などについての説明がありました。全校生徒が一同に集まる集会や行事は、いまだ行うことはできませんが、放送や学年別の日程を組むなど感染拡大防止策を講じたうえで、月曜日の朝礼もはじまりました。8月31日には放送による生徒会朝礼で、**選挙管理委員長の〇〇 〇〇さん(3-1)**から生徒会役員選挙についての説明が行われました。また、9月7日には、1年生にははじめてとなる朝礼がアリーナで行われ、校長先生のお話について学年の先生から生徒会役員立候補・推薦者の選挙運動や投票者の心構えや投票の仕方などの説明がありました。



1年生朝礼の様子



松田校長先生

学年別始業式の様子

1年生 JRC登録式

9月1日(火)に、日本赤十字社東京都支部から講師をお招きして、1年生のJRC登録式を行いました。今年度の講師は、昨年度まで本校の校長先生として南千住二中のJRCへの加盟から活動を推進いただいた**齊藤 進先生**です。青少年赤十字の精神や歴史などについてお話いただき、「生徒が**“気づき、考え、実行する”**を目標に、南二中の伝統である黙礼がはじまりました。人のために役立とうとすると、自分も幸せになります。困った人がいたら助けられる人になってください。」という言葉が強く心に響きました。そして生徒会本部役員**の〇〇〇くん(3-3)**の宣誓に続き1年生全員がJRCの一員である自覚をもつために「誓い」を唱和しました。また、**JRC委員長の〇〇〇〇さん(3-2)、レスキュー部兼スーパーレスキュー部部長の〇〇〇〇さん(3-1)と〇〇〇〇さん(3-2)**からそれぞれの活動報告が行われました。JRC委員会発足から今年で10年。ペットボトルキャップ集めで世界の子どもたちに届けられたワクチンは約280人分に上りました。最後に、新たに登録された1年生を代表して**〇〇〇くん(1-5)**に齊藤先生からJRCバッジが授与されました。



〇〇くんによる宣誓



活動報告

地域学習スタート!

南千住二中では、**地域の歴史や文化を学び、地域に誇りを持ち、地域を愛する心を育て**ために1年生は入門編として**“史跡や文化財”**を中心に、2年生は**“地域にまつわる伝承”**について、3年生は3年間の集大成として**“地域を語る中学生”**を目指して地域学習を行っています。2学期に入り、総合的な学習の時間には各学年で本格的な地域学習が始まりました。8月28日(金)には、1年生が1階ホールの展示や玄関の史跡案内板などをまわり学校の歴史を学びました。また、3年生は9月30日(水)に行う1年生の校内地域めぐりの案内役としての調べ学習や発表準備をスタート! 9月4日には中陳先生が講師になり1年生に南千住地域の歴史や文化についてパワーポイントを使いわかりやすく紹介しました。9日(水)には、南千住地域の白地図に史跡や神社・仏閣の場所を探しシールを貼っていきました。ふだん見慣れた街並みに実は多くの史跡や名所があることがわかり、1年生はたいへん熱心に地域学習に取り組んでいました。



3年生地域学習



1年生地域学習

Thank you card 活動

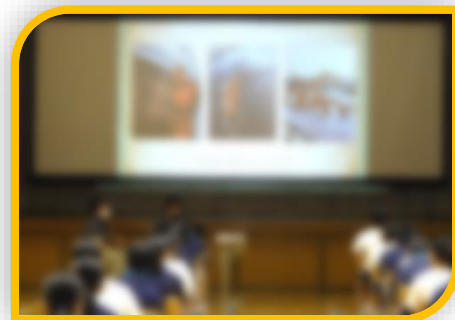


今年は7月下旬から2週間の夏休みを挟んで8月末まで授業が行われ、その間毎日欠かさず給食が提供されました。実は給食室にはエアコンがありません。調理師の皆さんは酷暑の中、熱中症対策や食中毒防止に努めながら、おいしい給食を作っています。そこで、調理師の皆さんに感謝の気持ちを伝えたい、とJRC委員会と生徒会本部役員が中心となって、全校生徒が感謝のメッセージを書いたカードを大きなボードにまとめて給食室前に掲示しました。カレーのご飯一粒一粒に1年生が、周りのハートに2・3年生の感謝の言葉が書かれています。**調理師さんからは「今まで調理師として働いて一番感動しました」と感激の言葉をいただきました。偶然にもその日の献立はカレー。心のこもった手作りカレーを皆でおいしくうれしくいただきました。**

2年生 妖怪講座

9月1日(火)の1・2校時に、**造形作家の天野 行雄さんとNPO法人千住すみだ川の海老江 重光さん**を講師にお招きして、2年生の**妖怪講座**が開かれました。

南千住の歴史は古く、平安時代にはすでに隅田川の渡しと呼ばれる渡し船があったと記録されています。隅田川流域の南千住の街や隅田川にまつわる伝承も数多く残されており、南千住二中の玄関前に展示された三体の御輿はその伝承を代表する妖怪をイメージしたものです。妖怪講座では、海老江さんが南千住地域をまわり集めてきた言い伝えやそれをもとに天野さんが描いた妖怪の絵などを見ながら、いくつかの妖怪についてお話をうかがいました。今年の大霜月祭では、2年生は妖怪をテーマに劇を上演することもあり、大変興味深く、ときにはメモを取りながら、妖怪にまつわる話に聞き入っていました。



映像を使い、楽しく妖怪についてお話くださった天野さん(左)と海老江さん(右)

3年生 弁論大会

9月3日(木)6校時に、アリーナを会場にして、3年生の弁論大会が開かれました。予め行われた各クラスの発表を経て選ばれたのは8人。発表順に、**〇〇〇〇さん(2組)**が「見た目」について、また、**〇〇〇〇さん(3組)**が「ペットボトルキャップ一つで」、**〇〇〇〇さん(2組)**が「選択」、**〇〇〇〇くん(1組)**が「日本語の必要性」、**〇〇〇〇くん(1組)**が「なまけについて」、**〇〇〇〇さん(3組)**が「食事と家族」、**〇〇〇〇さん(1組)**が「食物アレルギーへの対応」、**〇〇〇〇くん(3組)**が「本当の主人公」とそれぞれのテーマで意見を発表しました。緊張しながらも、はっきりとした声で時々会場に視線を向けて話す姿は堂々として大変立派でした。この中から1名が3学年を代表して大霜月祭で意見発表を行います。

